

北海道ITS計画検討委員会

北海道ITSホームページ

URL:<http://www.hkd.mlit.go.jp/its/plan/index.htm>

事務局

北海道開発局 建設部 道路計画課

住所:〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目

電話:011-709-2311

URL:<http://www.hkd.mlit.go.jp/>

北海道 建設部 道路計画課

住所:〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

電話:011-231-4111

URL:<http://www.pref.hokkaido.jp/>

札幌市 建設局 土木部 道路課

住所:〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話:011-211-2617

URL:<http://www.city.sapporo.jp/city/>

日本道路公団 北海道支社 建設部 企画調査課

住所:〒004-8512 札幌市厚別区大谷地西5丁目12番30号

電話:011-896-5211

URL:<http://www.jhnet.go.jp/hokkaido/>

北海道

ITS Intelligent
Transport
Systems

高度道路交通システム

北海道ITS推進プラン

2002年1月発行

北海道ITS計画検討委員会



ITSとは…

ITSの 9つの 開発分野



ITS(Intelligent Transport Systems)とは、最先端の情報通信技術を用いて、「人」「道路」「車両」を情報によって一体のシステムとして構築する社会システムです。ITSは、「ナビゲーションシステムの高度化」「自動料金収受システム」「安全運転の支援」など、9つの開発分野から構成されています。道路情報通信システム(VICS)やノンストップ自動料金支払いシステム(ETC)など一部のITSサービスがすでに運用開始されています。ITSによって交通や暮らしが安全で快適なものに変わっていきます。

「ITS推進プラン」の策定

北海道は、火山噴火などの災害、冬期の厳しい気象条件による通行障害、情報化の地域格差など多くの課題を抱えています。これらの課題を解決、克服するために、北海道ITS計画検討委員会では、北海道におけるITSの積極的な導入を総合的・計画的に進めるために「北海道ITS推進プラン」を策定しました。



北海道ITS計画検討委員会
道内外の有識者や関係機関から構成した委員会で、北海道の地域課題・ユーザーニーズに基づいた施策と、その推進方法を検討して参りました。



佐藤 馨一委員長
(北海道大学教授)



委員会における討議の風景
(北海道大学教授)

委員会委員		
委員長	佐藤 馨一	北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 教授
委員	石田 東生	筑波大学社会学系 教授
	稲村 征紀	北海道経済連合会 事務局長
	逢坂 誠二	ニセコ町 町長
	加治屋安彦	北海道開発土木研究所 防災雪氷研究室 室長
	桜井 宏	北見工業大学土木開発工学科 助教授
	林 美香子	フリーキャスター
	山本 強	北海道大学大学院工学研究科電子情報工学専攻 教授
	北海道開発局	建設部道路計画課
	北海道開発局	建設部道路維持課
	北海道	建設部道路計画課
	札幌市	建設局土木部道路課
	日本道路公団北海道支社	建設部企画調査課

■カーナビゲーションシステム:
ドライバーの目的地到達を支援するため、自動車の現在位置を地図上に表示し、目的地までの距離や方位を示すシステム。

■VICS:
道路情報通信システム。ドライバーの利便性向上、渋滞の解消・緩和等を図るため、渋滞状況、所要時間、工事・交通規制等に関する道路情報や道路に設置したビーコンやFM多重放送により、カーナビゲーション等の車載機へリアルタイムに提供するシステム。

■ETC:
有料道路における料金所渋滞の解消、キャッシュレス化による利便性の向上、管理コストの節減等を図るため、有料道路の料金所で一旦停止することなく無線通信を用いて自動的に料金の支払いを行うシステム。

Contents

- ITSとは ————— 01
- 北海道ITS計画検討委員会 ————— 02
- 北海道の今 ————— 03
- 北海道のITSがめざすもの ————— 05
- 走りやすい冬道をめざして ————— 07
- 災害への万全な備えと安全な道路をめざして ————— 09
- 観光を基軸とした地域産業の支援 ————— 11
- 安心・快適な生活のために ————— 13
- 沿道環境の改善のために ————— 14
- ITSを実現する基盤 ————— 15
- 北海道におけるITSのこれから ————— 17
- ITSによる未来の北海道 ————— 19
- 北海道ITSを着実に推進するために ————— 21



北海道のITSがめざすもの

厳しい冬、災害といった北海道特有の地域課題を解消し、さらに、誰もが豊かで安心して暮らせる活力のある地域社会の実現に向けて、5つの取り組みを提案します。

SUPPORT

観光を基軸とした地域産業の支援

Supporting local industry based on tourism

- ・観光客の方々でも目的地へスムーズに行けるようになります。
- ・観光客の方々が冬期でも安心してレンタカーなどの自動車を利用できるようになり、冬の観光も盛んになります。
- ・観光客一人一人が、それぞれの知りたい情報をすばやく適切に入手できるようになります。

安全・快適・円滑な北の交通を いつでも、どこでも、誰にでも

—ITSを用いて、地域と四季を通じた安全でゆとりのある移動を実現し、快適な北海道のライフスタイルと地域産業を応援します—

SNOW

走りやすい冬道をめざして

Comfortable driving on snowy roads

- ・冬の天気や、路面が凍結していて危ない箇所、ドカ雪で通れない箇所がわかります。
- ・吹雪でも、どこを走っているのか、止まっている車などの障害物がわかります。

SURROUNDINGS

沿道環境の改善のために

Improving the environment around roads

- ・どの道が混雑しているかわかります。
- ・バスや電車の到着時間がわかります。
- ・駐車場の場所や混み具合、料金などがわかります。
- ・高速道路の料金所で停車しなくても料金が自動的に支払われます。

SECURITY

災害への万全な備えと安全な道路をめざして

Safe roads and fail-safe preparations against disasters

- ・落石や土砂崩れなどの発生がすばやくわかります。
- ・災害発生時に通れない道や回り道がわかります。
- ・携帯電話が通じない場合でも、駐停車帯などで連絡ができるようになります。
- ・走行中に見えない前方まで状況がわかります。

SAFE & SOFT

安心・快適な生活のために

For safe and stress-free life

- ・お年寄りやからだの不自由な人が安心して利用できる道順や施設がわかるようにします。
- ・外出中に万一事故にあったり急にからだの具合が悪くなった時、緊急機関への連絡ができるようになります。

The 5S Basics 2002

Safety, comfort, smooth driving on snowy roads. Free to go anywhere, anytime, anyone.

走りやすい冬道をめざして

冬期の北海道の道路は、路面凍結や吹雪・地吹雪が発生し、夏の道路と同じように走行することができません。厳しい自然環境下でも円滑な道路交通を確保するため、走行中のドライバーに視程障害時の視線誘導や、刻々と変化する気象や路面状況、道路状況などの情報を提供し、走りやすい冬道をめざします。

●出発前に峠情報をチェックできます



峠の画像情報(北海道開発局)
URL http://www.hkd.mlit.go.jp/zygyoka/z_doro/doroinfo/flame.htm

北の道ナビ(北海道道路情報研究会)
URL <http://www.northern-road.jp/navi/>

家庭やオフィス、移動途中の「道の駅」などから、インターネットや情報端末を使って峠の映像や路面の状況、気象状況などを出発前でもリアルタイムに入手できます。これによって、出発時刻の調整やルートの変更が可能になり、より安全に通行できるようになります。

●移動中の車の中でも、道路情報をチェックできます



携帯電話による情報提供のイメージ

ナビゲーションによる情報提供のイメージ

カーナビゲーションシステムなど移動体端末を利用してドライバーや同乗者に対して車の位置に応じた道路情報を自動的に配信したり、周辺地域情報を好みに応じて検索できるようになります。既にVICSによる情報提供サービスが実用化されています。

●自分の欲しい情報をタイミングよく入手できます



路面状況 国道○○号 積雪 気温 朝○○時の気温 -○○℃ 降雪量 ○○区 ○～○cm

出発時間を早めるか...

地下鉄で行こうかな

僕でこんなコトがわかるんだよ!

時間通り届くかしら...

スマート札幌ゆき情報実験2002
(スマート札幌ゆき情報実験協議会)
URL <http://sapporo.its-win.jp/>

冬の暮らしに必要な雪に関する情報をはじめ、冬期の道路情報を位置や時間を問わず、さまざまな生活パターンや個人のニーズに合わせて携帯電話やパソコンなどに自動的に提供することにより、北海道の冬の暮らしがより安全で快適なものになります。

平成14年1月～2月には情報提供の取組みとして、札幌圏において「スマート札幌ゆき情報実験2002」を実施します。

■自発光式視線誘導標:
車道の側方に沿って設置され、道路線形を示し道路利用者の視線誘導を行う施設。

●吹雪でも安心して運転できます



自発光式視線誘導標

道路センサー(ミリ波レーダー)

道路情報板

インテリジェントデリニエータシステム(H9実道実験)

道路情報板

道路監視カメラ

吹雪などの視程障害時に、道路線形に応じたドライバーの視線誘導や、前方で停止している事故車両などをすばやく検知し、後続車両に自発光式視線誘導標などで危険警告を行います。これによって、冬道をより安全に走行することが可能になります。

寒冷地AHSのシステムイメージ

●石狩吹雪実験場



曲線試験ゾーン R=50m

分合流部試験ゾーン

直線試験ゾーン L=300m

石狩吹雪実験場

可視センサ

赤外センサ

ミリ波レーダー

自発式視線誘導標

路側情報板

寒冷地AHSパイロットシステム

実験状況

被験者実験によるユーザ受容性評価

寒冷地AHS用の各種センサー

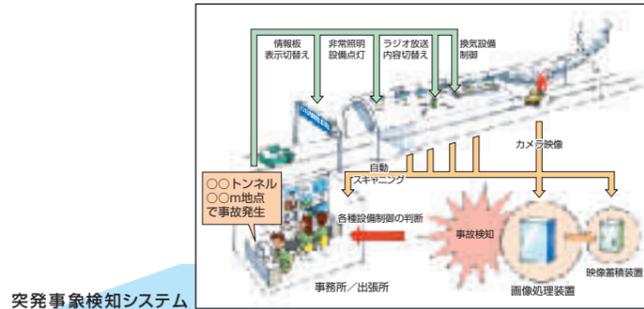
独立行政法人北海道開発土木研究所の石狩吹雪実験場では、雪氷路面や降雪・吹雪による視程障害などの厳しい道路条件下で、事故車両などの障害物検知を行ったり、危険警告情報の提供、危険回避行動時のドライバーの運転挙動を観測する実験(寒冷地AHS実験)などを行っています。

災害への 万全な備えと 安全な道路を めざして

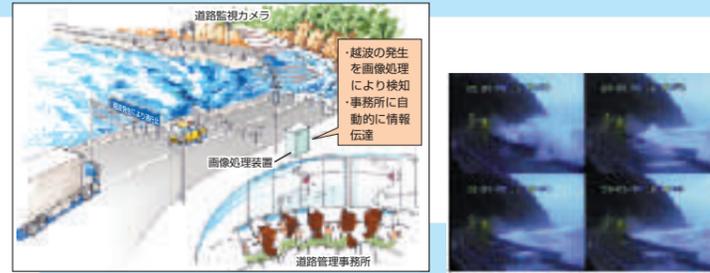
火山噴火や土砂災害など
北海道の自然は時として私たちに
厳しい一面を見せます。このため、
災害時には迅速な情報収集、適切な
情報提供でドライバーの安全を
確保するなど、二次災害の防止と
迅速な対応が可能となる
「災害に備えた地域づくり」を
支援します。

また、北海道は全国でも
死亡事故につながる重大事故の
発生が多い地域です。このため、
道路状況をセンサーなどで収集し
ドライバーに危険警告を行うなど、
誰もが安全に走行できる
道路をめざします。

●災害をすばやくキャッチします



突発事象検知システム



越波検知システム

道路監視カメラや各種センサーにより、落石やトンネル内の事故、越波などを自動で検知します。これによって、災害対策を速やかに行い、被害を最小限に食い止めることができ、また二次災害を未然に防ぐための通行規制なども迅速に行うことができます。

●すばやい状況把握により迅速に対応します



情報コンセント

地震や火山噴火、落石や岩盤崩落などの災害の危険がある地域では、突発的な災害に対する危機管理が重要になります。そこで、現地でカメラや各種情報端末機器を接続することにより、道路管理に必要な情報をリアルタイムで管理事務所に伝送できる情報コンセントを、道路沿線に設置します。これによって、災害時にもすばやく詳細な現地状況の把握が可能になります。



落石検知システム

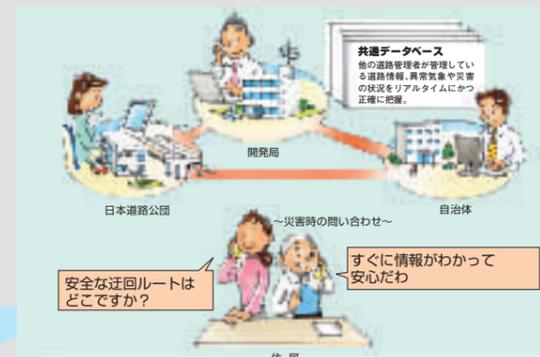
●危険をいち早くドライバーに伝えます



災害情報の提供

災害が発生した場合は、道路情報板やカーナビゲーションシステムなどで近くを走行するドライバーにいち早く伝えます。また、災害に伴う通行規制情報などは、インターネットや「道の駅」の情報端末を使って広域的に提供します。これによって、二次災害を未然に防ぐとともに、あらかじめ迂回ルートを選択することが可能になり交通の円滑化が図られます。

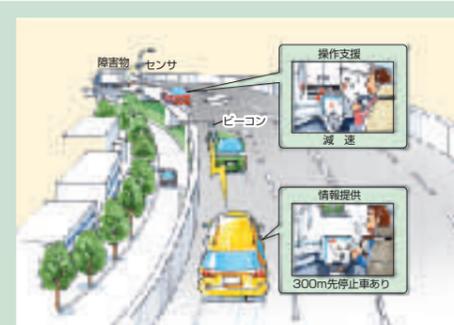
●関係機関が連携して対応します



情報共有のイメージ

さまざまな情報機器により迅速に収集された情報は、専用の情報通信ネットワークを利用して、各関係機関がリアルタイムに共有します。これにより、関係機関が一体となった災害対策が可能になり、緊急時の問合わせに対してもすばやい情報提供が可能になります。

●誰もが安全に走行できる道路をめざします



見通しの悪いカーブや交差点などの事故が発生しやすい場所において、対向車や落下物などの障害物を検知し、事前にドライバーに情報提供や危険警告を行います。これによって、交通事故を未然に防ぐことが可能になります。

前方障害物衝突防止支援

観光を基軸とした 地域産業の支援

北海道は豊かな自然や、多くの観光資源に恵まれ、観光が重要な産業となっています。今後は、観光客の方々に北海道の魅力を発信するとともにスムーズな移動をサポートし、観光による地域産業の活性化を支援します。

●行く先々の観光情報をタイミングよく入手できます



旅行中、今いる場所はもとより行く先々の道路情報や気象情報、地域のホットな観光情報などがインターネットを通じて携帯電話やカーナビゲーションシステムなどのモバイルマルチメディア、カーマルチメディアが自動的に、しかも欲しい情報だけを選別して取得できるようになります。平成13年度の夏にニセコ羊蹄エリアにおいて、利用者のいる場所に応じて携帯電話に天気・イベントなどの情報をEメールで配信する「ニセコ・羊蹄e街道実験」を行いました。

- ◇国道230号中山峠などの道路情報
- ◇ニセコ・羊蹄エリアのお天気情報
- ◇ニセコ・羊蹄エリア9町村の観光情報(イベント、温泉、食べ物、自然)

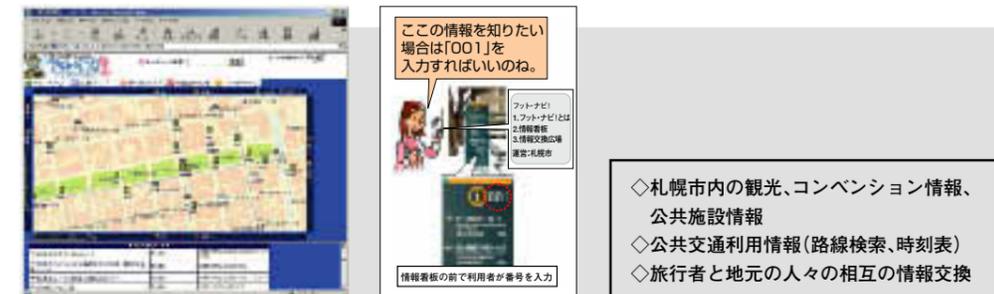
●バスによる都市内観光が便利になります



都市内観光では、観光名所の情報や観光バスの運行状況など、徒歩やバスでの移動に便利な情報が、携帯電話や街角の情報端末、インターネットなどを通じて、いつでも入手できるようになり、快適な旅行を満喫できるようになります。平成13年度の秋には函館西部地区において、携帯電話や街角の情報端末を通じて観光バスの運行状況、観光施設情報、駐車場情報などを提供する実験を行いました。

- ◇観光バスの運行情報
- ◇散策路検索サービス
- ◇目的地周辺の地図情報提供サービス

●初めて札幌を訪れた方でも、迷わず観光できます



札幌が初めての方でも、ホームページや携帯電話を使って、主に市内中心部の「街歩き」が楽しく、快適にできるようなフットナビ! サービスを行います。旅行前には、ホームページ上の地図で、旅行計画をつくり、旅行中は、街角で、携帯電話からコース検索、旅行後は旅のヒントを情報交換できる仕組みを提供します。

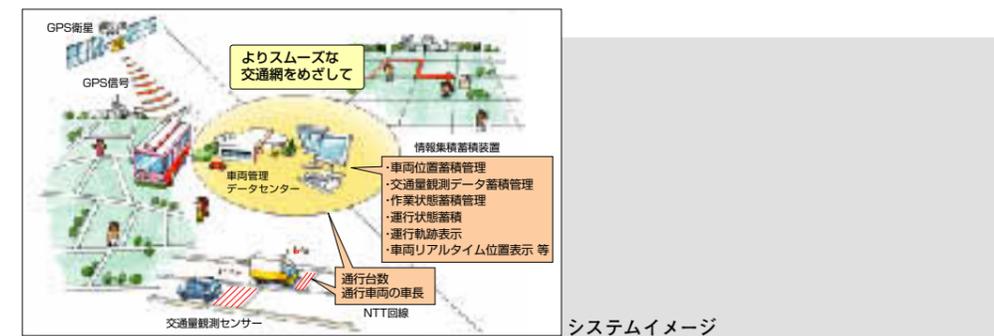
- ◇札幌市内の観光、コンベンション情報、公共施設情報
- ◇公共交通利用情報(路線検索、時刻表)
- ◇旅行者と地元の人々の相互の情報交換

●観光地をスムーズに周遊できます



道路情報館は、札幌市街及び中山峠付近の道路交通に関する様々な情報を提供する資料館です。トイレや休憩スペースを24時間開放して、ドライバーへ全道の道路・交通情報の提供を行っています。また、展示・図書スペースでは道路に関する各種資料の展示を行っています。

●観光バスの走行データを有効活用し、交通施策実施の判断に役立てます。



観光地を周遊する観光バスに走行データ(速度、旅行時間)が収集できる機器を設置し、周辺地域の交通動態をきめ細やかに把握します。収集したデータを解析することによって道路交通の現況を評価し、それを基に様々な対応が可能になります。



安心・快適な生活のために

北海道においても高齢化が著しく、バリアフリー化の取り組みに対するニーズが高まっています。すべての人が北海道らしいゆとりのある安心・快適な生活を送ることのできる環境の実現を支援します。

●障害者、高齢者の方も安心して歩けます



音声による歩行支援のイメージ

横断歩道の位置や段差といった安全情報や目的地までのルートなどがわかる位置情報を、携帯端末機器などを用いて地図や音声で目の不自由な方や高齢者にお知らせします。これによって、誰もが安全に安心して活動できる積極的な社会参加を支援します。

●公共交通の情報がわかります



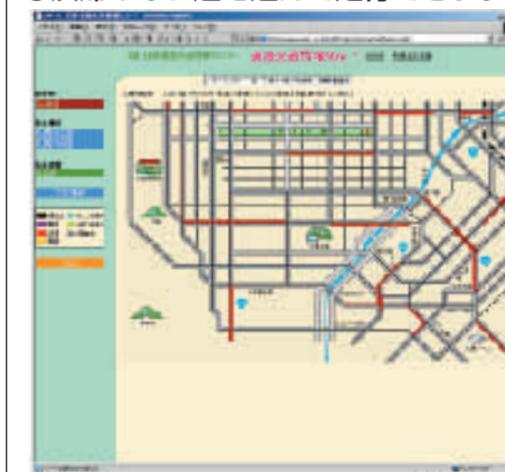
路線情報及び時刻表の提供(札幌市)
URL <http://ekibus.city.sapporo.jp/>

都市内の公共交通機関の時刻表、運賃、乗換ルートなどの利用に関する情報をインターネットや携帯電話に提供します。これによって、公共交通の利便性が向上し、安心・快適な移動を支援します。

沿道環境の改善のために

地球環境問題の中で大きなテーマとなっている「温暖化問題」や、生活環境の改善に対応し、都市部沿道における環境負荷の低減をめざします。

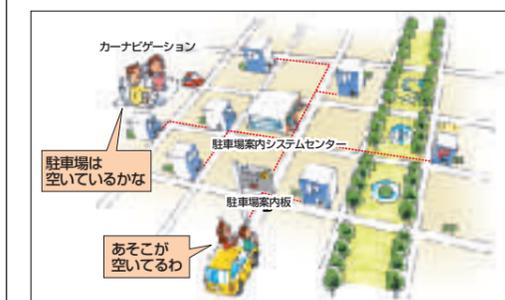
●渋滞のない道を選んで走行できます



インターネットによる交通情報の提供((財)日本道路交通情報センター)
URL <http://www.jartic.or.jp/traffic/roadtrafficinfo.html>

都市内の一般国道や高速道路の渋滞状況および所要時間を、インターネットやカーナビゲーションシステムなどを利用してドライバーに提供します。これによって空いている道を選んで走行することが可能になり、交通の分散による渋滞の低減が図られます。

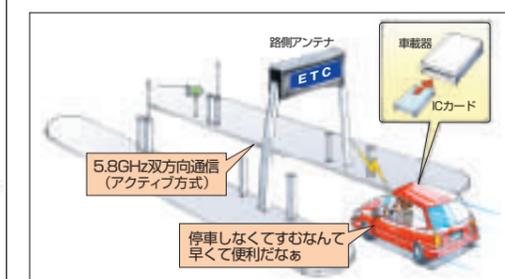
●駐車場待ちによる都市内渋滞を緩和します



駐車場案内システム

都市内の駐車場の満空情報を、情報板やカーナビゲーションシステムを通じてドライバーに知らせます。これによって、駐車場探しの迷走車両や行列待ちが軽減され、交通の円滑化が図れます。

●利便性の向上、沿道環境の改善



自動料金収受システム(日本道路公団北海道支社)

ETCによって、高速道路の料金所を停車せずに料金支払いを自動的に行い、利便性の向上(ノンストップ・キャッシュレス)、沿道環境の改善(排気ガス・騒音の低減)、料金所渋滞の緩和を図ります。



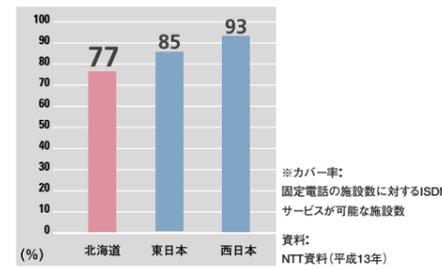
ノンストップ自動料金支払いシステム
(日本道路公団北海道支社)

ITSを実現する基盤

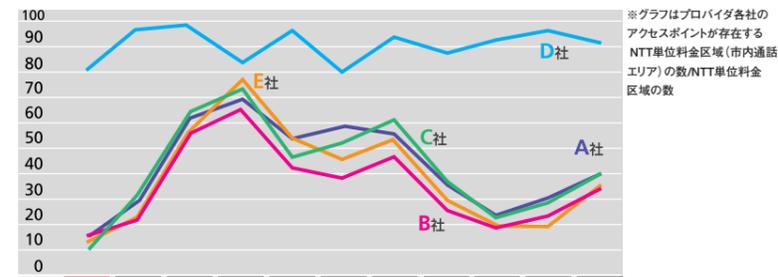
北海道は、全国と比べ情報基盤の整備や、情報ツールの普及などの情報化が遅れているのが現状です。北海道では、これらの情報化の地域格差を解消するための取組みを行います。

情報通信基盤の現状

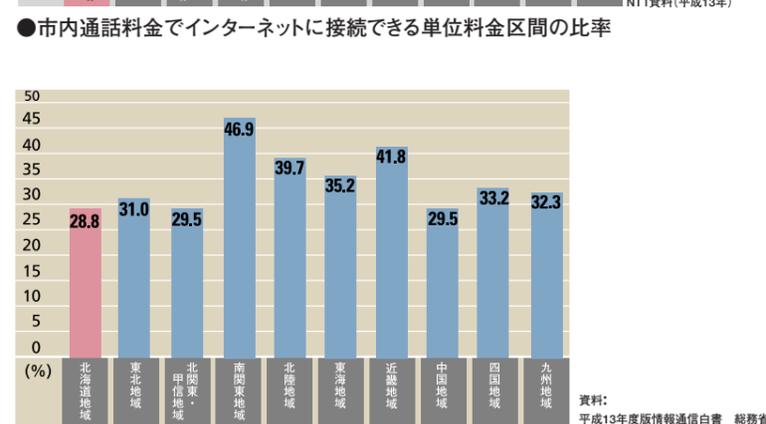
北海道は、情報通信基盤の整備が遅れており、インターネットへのアクセスポイントの普及率は全国で最も低く、情報アクセスの地域格差が生じています。インターネット利用の比率についても、北海道が全国で最も低くなっています。また、山間部などには携帯電話の不感地帯が存在しています。(国道6.3千kmのうち、1.2千km(約19%)が不感地帯)



●地域別のフレッツISDNサービス(ISDNによるインターネット常時接続サービス)のカバー率



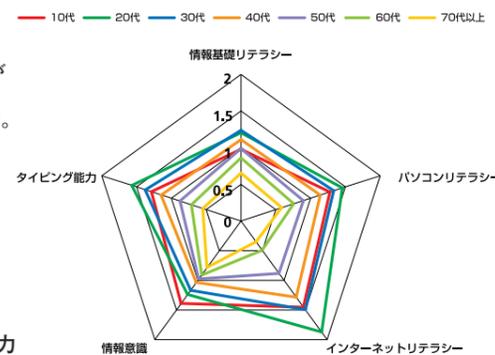
●市内通話料金でインターネットに接続できる単料金区間の比率



●地域別に見たインターネット利用の比率

年齢と情報機器を利用する能力

高齢者の情報機器を利用する能力が他の年代と比べて低く、世代間で情報機器所有の格差が生じています。



●年齢と情報機器を利用する能力

■リテラシー: 読み書き能力。また、ある分野に関する知識やそれを活用する能力。「情報リテラシー: コンピューターなど情報関連技術を習得し、積極的に情報を活用することのできる能力。」

高度情報化をめざした取組み

■情報ボックス: 道路管理用光ファイバーの収容空間の一つ。経済的に安価な方式を採用しており、光ファイバー網の全国整備に関する政府基本方針に則り、21世紀初頭までに電線共同溝と合わせて15万km整備する予定。

■光ファイバー: 情報通信インフラを構成するための通信媒体の一つ。光ファイバーは大量、高速通信を可能とするもので、高度情報通信社会づくりを実現させるために必要不可欠なものとなっている。

●情報通信基盤の整備推進

地震などの大規模災害時における即応体制の確保など、道路の安全性・信頼性の向上を図るために、光ファイバーによる情報通信ネットワーク(情報BOX)整備を進めています。



●情報アクセスに関する地域格差の解消

道路管理用に整備した、情報通信基盤を有効に活用することによって、情報アクセスに関する地域格差の解消や、情報通信サービスの高度化を支援します。



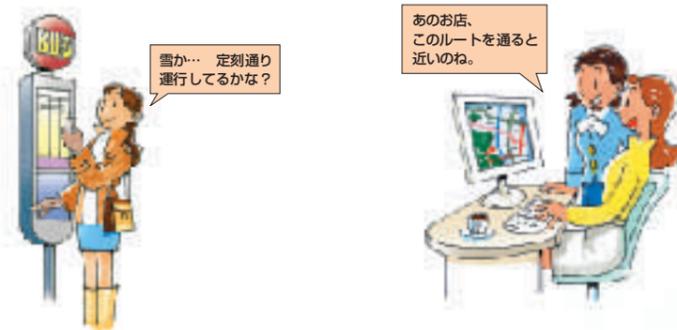
●不慣れな人にも利用しやすいシステム

情報機器を利用する能力に世代間格差があることを踏まえ、情報機器の操作が不慣れな人にも利用しやすい操作画面や音声を利用したシステムの実現をめざします。



北海道における ITSのこれから

北海道ITSでは、地域の情報化をめざした情報通信基盤の整備を進めるとともに、利用者にとって価値のあるITSサービスの構築を順次おこなう予定です。



2001

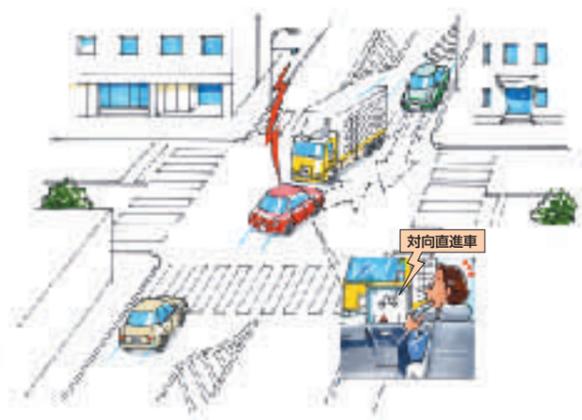
2002

2003~

2005~

2010~

道路交通情報提供サービス	●インターネット、携帯電話による提供開始 ・気象、規制情報、駐車場情報（札幌、小樽、室蘭、旭川） ・規制情報（全道） ・渋滞、所要時間情報（札幌）（(財)日本道路交通情報センター） ・道路画像、路面情報（中山、石北、日勝、狩勝峠）	●インターネット、携帯電話による提供エリアの拡大 ・気象、規制情報の提供範囲拡大（全道） ・道路画像、路面情報の提供範囲拡大（全道主要峠、直轄高規格幹線道路）	●インターネット、携帯電話による提供エリアの拡大 ・道路画像、路面情報の提供範囲拡大	●提供内容の充実（異常気象による通行規制実施・解除予測情報、都市間国道の渋滞、所要時間情報等）
安全走行支援サービス	●輝度調整型視線誘導標の実運用（札幌）	●冬期視線誘導システムの実道実験（上越白滝、国道275号）	●冬期視線誘導システムの実運用開始（平成16年）	●路車間通信による車載端末への情報提供（注意喚起、危険警告） ●冬期道路における緊急時の運転補助 ●自動車専用道路等における自動運転
観光客の移動支援サービス	●インターネット、施設内情報端末による地域観光情報の提供 ●道路情報と連携した観光情報提供（ニセコ・羊蹄地域社会実験）	●地域観光情報提供エリアの拡大 ●次世代型道の駅端末の試験設置	●次世代型道の駅端末の試験設置地域観光情報提供の概成 ●次世代型道の駅端末の試験設置	●道路情報と連携した観光情報提供の実運用
公共交通利用情報提供サービス	●インターネット、携帯電話によるバス運行状況の提供（函館社会実験、札幌試験運用）	⇒	●インターネット、携帯電話によるバス運行状況の提供の実運用	●サービス内容の充実（公共交通機関の予約サービスなど）
自動料金収受(ETC)	●一部料金所におけるETCの導入（札幌道、道央道） ●ETCカードの多目的利用	●ETCの利用普及への取組み	●同左	●同左
歩行者の移動支援サービス	●現在位置情報、経路誘導の社会実験（札幌）	●同左	●現在位置情報、経路誘導の実運用	⇒ ●車両との連携による歩行者等の安全確保（自動車接近時における危険警告、車両速度の抑制など）
基盤整備	●情報BOX整備推進（約2,000km） ●光ファイバーネットワーク整備推進（約2,100km）	●情報BOX整備推進（約2,150km） ●光ファイバーネットワーク整備推進（約2,200km） 全道 開発建設部ネットワーク化完了 ●光ファイバーによる道路管理用LANの運用開始	●第一次計画の展開完了（2,800 km）	●情報BOX、光ファイバーネットワーク第二次計画の整備開始 ●全道の情報BOX、光ファイバーネットワークの整備完了 ※情報BOX、光ファイバーの延長は、国道分です（平成13年12月現在）
道路管理の高度化	●道路管理者間での情報共有化の試験運用 ●自治体への情報提供一部開始	●道路管理者間の情報共有化の一部運用開始 ●全道国道ITV画像の道路管理用LANによる動画モニター運用開始 ●自治体への情報提供拡大	●除雪車の運行管理の運用開始 ●道路管理者間の情報共有化の実運用開始	●道路管理者間の情報共有化の概成（国、道等） ●道路管理者間の情報共有化の充実（市町村）



■ETCカード：
ETCシステムを利用するためのICカード。ETCカードには料金決済に必要な情報が格納され、暗号化されており、安全で迅速な情報交換ができるようになっている。

ITSによる未来の北海道

高度情報化社会の到来にむけ、情報BOXや光ファイバーネットワークなどの情報通信基盤をはじめ、各種の情報収集提供機器などの整備を推進していきます。



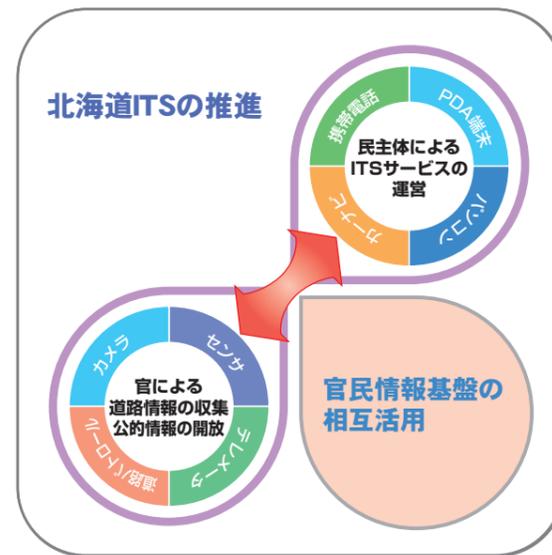
北海道ITSを着実に推進するために

誰もがさまざまなサービスを利用できる環境を整備します

ITSは自動車交通に関する諸問題の解決に加えて、物流コストの削減やオートリゾートなど観光の高付加価値化、地域間流動の促進などをもたらし、地域の活性化や新しい産業の創出など産業・経済面でも効果が期待されています。例えば、道路、気象情報と様々な地域情報を組み合わせることで、情報の新たな利用が生まれ、地域の活性化に多くの波及効果を及ぼすものと期待されています。この様にITSは高度情報化社会実現の一翼を担うものであり、科学技術の高度化に対応した早急な変革に対応するために産学官が協力、連携してITSの展開を推進する必要があります。

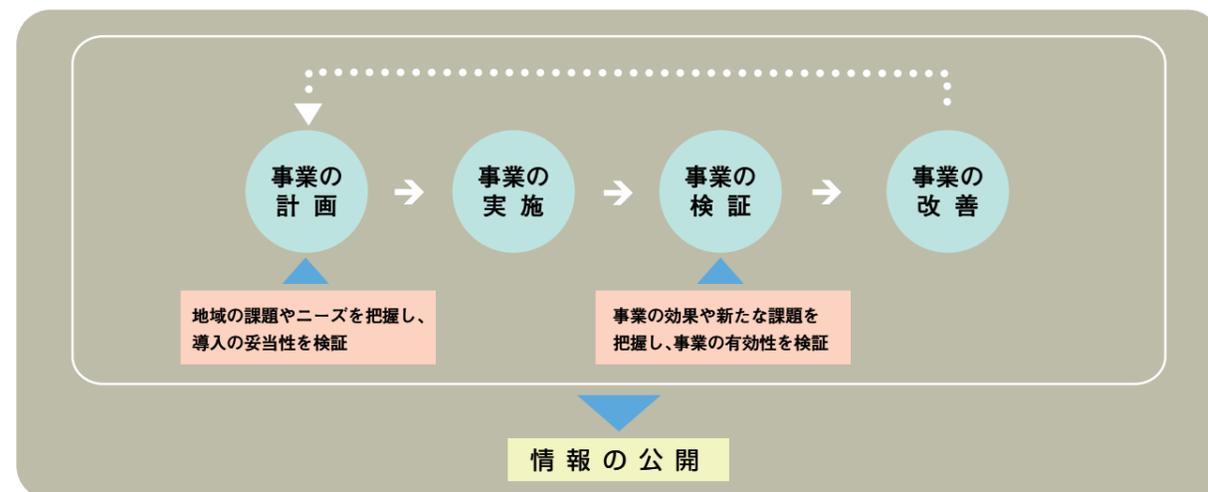
- ITSの推進では、交通安全の確保はもちろんのこと、地域のニーズに合った情報の提供など全ての人にとって利用価値のあるサービスの提供が必要です。また、研究開発やサービス提供の実現化では、民間技術力やアイデア、ノウハウを用いて誰もが広くITSを十分に利用できる環境を整えることが不可欠です。
- また、地域産業の活性化に加え、情報化の地域格差の解消、地域生活の利便性向上のためにも官の保有する、公的情報や通信インフラの民間への開放を積極的に推進する必要があります。

◎北海道ITSの推進環境



事業効果の検証と情報公開

- 北海道ITSを効果的、効率的に導入展開してゆくためには、それぞれのITSサービスに対して地域の課題やニーズを踏まえて事業計画を策定することが重要です。
- 事業によっては社会実験を行い、その中で有効性を検証した上で事業の改善や本格導入を図っていきます。
- 地域の課題やニーズにきめ細かく対応するため、事業に関する情報は継続的に公開してゆくことが必要です。



これまでの取り組み

北海道では、産学官の共同により、さまざまな専門分野でITSに関する各種調査・研究が行われています。

■札幌圏ITS推進フォーラム

札幌圏で、ITSに関係の深い産学官の諸機関や専門家の連携、および地域レベルのITS推進に向けた啓発・普及・調査研究・支援協力などを行っています。

■ニセコ・羊蹄e街道実験協議会

平成13、14年の夏期にニセコ・羊蹄地域の道路や気象、観光情報などをインターネットで携帯電話に提供する実験を実施しています。道路の安全性・利便性の向上や、観光情報などの提供による地域の活性化を目的としています。

■寒地都市道路情報研究会

札幌圏心部において、特に地元の地理に不案内な外国人を含む観光客を対象として、歩行者の利便に資する各種の情報をインターネットを介して提供するための実験を実施することを目的としています。

■寒地ITS研究会

北海道開発土木研究所では、道内外の有識者の協力の下に、北海道の地域特性に応じた寒地ITSの構想の策定やフィールド実験の提案を行い、寒地ITS導入の効果や、評価手法について検討しました。

■札幌圏ホワイトネット連絡会議

冬期を中心に道路管理の効率化・高度化の観点から、関係機関による連携のための情報共有や道路利用者への適切な情報提供のあり方について協力して調査・検討を行っています。

■北海道道路情報化研究会

北海道における道路情報化への対応について、インターネットの活用など幅広い検討を行っています。

北海道ITSを産学官の協力・連携で推進します

今後の北海道ITSの推進は、今まで取り組まれてきた様々な研究会などの成果を活用しながら、北海道ITSの全体像に照らしつつ、地域全体が整合性のある取組みを進める必要があります。

さらに、今後の北海道ITSを効率的で着実に展開して行くためには、既存の研究会や各関係者相互の連携・推進、民間事業者の参入推進を図るための体制づくりが必要と考えています。

